



☆校訓 文化の薫る学校の創造

☆学校教育目標 「こころざしを持ち 自分の道を切り拓く生徒」

令和2年7月2日 発行

「学校の新しい生活様式」と「富岳の世界1位から学ぶこと」

学校が再開したばかりの6月21日(日)の夏至を超え、午後7時過ぎだった日没が、少しずつ早まっています。今週は、雨がっていますが、例年、梅雨が明けるのは7月下旬です。ムシムシじめじめしたこの季節は、植物にとっては最も成長する時期なのですが、人にとってはなかなかしんどい季節です。梅雨が明けるまで、あと少しがんばりましょう。



さて、新型コロナウイルス感染は未だおさまる気配はなく、6月30日の東京都の新たな感染者は54人、50人を上回るのは26日から5日連続となっています。小池東京都知事は、「医療体制は十分整っているが、感染拡大への警戒を高めねばならない」と語っています。

そのような中、6月に文部科学省「学校の新しい生活様式」が通知されました。内容は3密(密閉、密集、密接)を避けることを基本に、「2方向以上のこまめな換気」「マスク着用」「隣と1m以上の間隔」等が細かくマニュアル化されています。また、3密は一つ一つ独立したものでなく、施設や換気状況等に応じて柔軟に対応するものとしています。更に、「感染リスクは可能な限り減らして教育活動を継続し、子供の健やかな学びを保障していくことが重要」とし、「感染リスクをゼロにすることはできないことを前提とし、感染者が確認された場合には迅速かつ的確に対処するよう、自治体の主管部局と連絡を取り合い、学校医等の専門家と連携した保健管理体制を築くこと」が明記されています。もし、感染者が確認された場合は、「直ちに地域全て一律に臨時休業を行うのではなく、感染者及び濃厚接触者の出席停止とともに、学校内での感染の広がりについての疫学的な評価を踏まえた判断を行い、同時に、感染者や濃厚接触者が差別・偏見・いじめ・誹謗中傷等の対象にならないよう、十分な配慮と注意が必要である」と書かれています。

ところで、コロナ禍ではありますが、少し明るいニュースがありましたので紹介します。6月22日スーパーコンピューターの計算速度を競う世界ランキングが発表され、日本の「富岳」が第1位を獲得しました。日本が世界一になるのは2011年の“京”以来8年ぶりです。私が注目したのは、会見での言葉「富岳は1番を目標に開発されたのではない。使いやすさを実現しようと開発に取り組んできたなら1位になった」です。島二中の生徒の皆さんも「よい点を取ろうとして勉強していたのではない。ただ、『自分の目標』を達成しようとしたら、点が上がった。」となれば、これこそ真の学びではないかと思えます。「富岳」は「京」が1年かかる実験を数日でこなすそうです。これから大いに活用され、新型コロナ対策の治療薬研究、防災面では地震と津波の避難経路等の予測、人工知能の計算性能測定など、多くの成果を出してくれることを期待しています。